



下北沢の街のあり方を考えるシンポジウム＝30日、世田谷区

# 文化の街を守ろう

下北沢

シンポに200人

幅二十六メートルの都市計画道路の建設や再開発に対し、「文化の街が分断される」と住民や若者らの反対運動が広がっている

世田谷区下北沢で三十

日、街づくりのあり方を考えるシンポジウム「都市(CITY)を構想するー下北沢から考える都市の公共性」が開かれ、約二百人が参加した。同日から二日まで行わ

れる国際イベント「第四回カルチュラル・タイフーン(文化台風)2006」(文化台風)2006「下北沢」の開会イベントとして行われたものです。

シンポジウムでは、宇沢弘文(東京大学名誉教授)が基調講演し、「ヨーロッパは都市のあり方を自動車中心から人間中心に切り替えている。雑然として親しみ深い下北沢の

街が壊されるのは、たまらない」と語りました。

(ジャーナリスト)の各

豊原敬(都市プランナー)、町村敬志(二橋大学教授)、佐々木葉(早稲田

氏が、道路計画の推移や、街を守ろうという運動の現状、街が持つ課題

と住民らが検討している代替案について報告。

「住民の多くが大型道路を不要とし、区に十分な話し合いを求めている」などとのべました。参加者から「どうやって広い層に関心を広げたらよいか」など質問や意見が出され、討議しました。

シンポジウムには、日本共産党の中里光夫区議も出席しました。